

令和5年4月10日

小規模多機能ホーム きいちご倶楽部

令和4年度第6回 地域運営推進会議 報告書

高齢者あんしん支援センター	様	出雲市役所福祉 高齢課	様	地域委員	様
社会福祉法人星隆会		小規模多機能ホ ームきいちご倶楽 部 施設長			

配布資料

- ①会議資料（本資料）
- ②小規模多機能型居宅介護サービス提供状況報告書

<ご利用者の状況>

1. 登録状況

3月23日現在、17人の方に利用登録いただいています（登録定員：25人）
要介護度と男女別の人数は次のとおりです。

	男性	女性	計
要介護1	5	1	6
要介護2	0	6	6
要介護3	0	2	2
要介護4	0	2	2
要介護5	0	1	1
計	5	12	17

年齢と男女別の人数は次のとおりです。

年齢	男性	女性	計
60歳台	0	1	1
70歳台	2	2	4
80歳台	3	4	7
90歳台	0	5	5
計	5	12	17

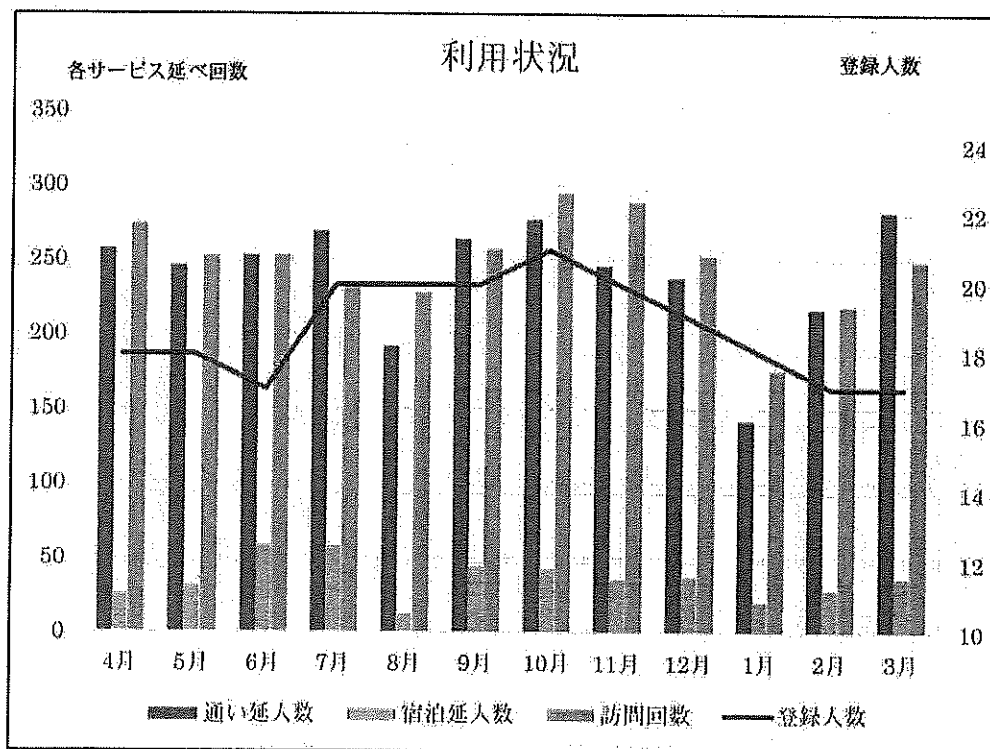
平均要介護度：2.50

平均年齢：84.28歳

2. サービス提供状況の推移（登録人数、通い、泊まり、訪問）

直近2カ月の実績数（延べ数）

月	通い	訪問	泊り
2月	217	219	29
3月	282	249	37



別紙「小規模多機能型居宅介護 サービス提供状況報告書」も参照してください

3. 2月～3月 行事・レクリエーション

2月2日（木）～2月3日（金） 節分

参加人数 2/2：8名 2/3：11名 10：00～11：00

二日にわたり、節分行事を行いました。

10時から甘納豆と一緒に飲茶していただき、皆様美味しそうに甘納豆を召し上がられ、お茶の時間を楽しまれました。

節分の由来や説明等をお話しさせていただきました。

2月20日(火) 職員会議 … 利用者生活状況の確認と支援方法について

2月28日(火) ドライブ

参加人数：5名

稲佐の浜にドライブに出掛けました。にわか雨が降っていましたが、小雨で気になるほどの雨ではなく、短時間外に出て頂き、海辺の空気を吸って頂きました。
参加された皆様には大変喜ばれ、また行きたいと仰る方もおられました。

3月28日(火) 職員会議 … 利用者生活状況の確認と支援方法について(予定)

4. 研修受講

外部研修

5月～2月 エルダー研修

(新人職員を技術面、メンタル面での相談役となりアドバイスを行う事で職場定着を図るための研修)

2月17日 若手交流推進事業

5. 入退院

令和5年2月～3月入退院なし。

6. 事故報告

令和5年2月～3月介護事故なし。

7. コロナ感染状況

3/6～3/13 職員に濃厚接触者がでたためその間休職。職員はPC検査を受け陰性を確認、3/14から出社。
その他の利用者様やその家族様、職員に変わりなし。

8. サービス評価

外部評価の実施

①事業所自己評価9項目の内3項目についての説明

②運営会議出席の方々からの意見(出来ている点、出来てない点など)

③外部評価 地域かかわりシート①について

項目Aから順に項目Fまでの出来ている点、出来てない点を伺う

④外部評価 地域かかわりシート②(まとめ様式)の作成

皆様から頂いた意見を基にミーティングを開催し改善計画を後日作成

⑤サービス評価総括表の作成

これまでに作成された資料からサービス評価総括表を作成します。

⑥結果の報告

作成したサービス評価総括表を運営推進会議の場にて報告させていただきます。

改善計画の期間は次回開催するまでの1年間になります。

8. 質疑応答

1. サービス提供状況の推移のこうもくがあるが、今月先月の表示で、何を言わんとしているのかが分からない。前月比と比較して何が何故変わったのかを追記すると良いと思う。

⇒次回からは前月と比較した結果、変化した理由を記述するようにする。

2. サービス提供状況報告書の備考欄は、書けることがたくさんある筈。ちょっとしたことでも記入して報告して欲しい

⇒承知した。次回から記入する。

3. サービス評価

事業所自己評価9項目のうち、3項目について説明

①「～したい」の実現（自己実現の尊重）

具体的な改善計画では、具体的に何をされるのか、入れてもらいたい。

⇒出来てない点に着目し次回までの改善計画をたてる。

②多機能性ある柔軟な支援

このケアプランの主役は誰なんだということを家族を含めて理解して貰うこと。

本人に視点を置いてどっちが言っている事が正しいのか、家族に説明し納得してもらう必要がある。違う方向から攻めてみると柔軟な形になるのではないかと。

もっと本人の希望を取り入れたサービス提供をすべきで、家族は絶対にこうでないとならないというなら、本人はそう思っておらず、別の過ごし方をしたいと持っている事を家族に話し、折り合える点を探すべきで、それがだめでも、20%は本人の意見が尊重されるような取り組みが必要と思う。

⇒家族全体に対するアセスメントが不足していたように思う。これまで、概ね家族の意見を基にしたサービス提供をされてきた。今後はもっと利用者の意見を尊重し、家族に利用者の思いを伝え、利用者の意向にできるだけ沿ったサービス提供が出来るようにしていく。

③運営

塩冶町だけでも110件の住宅がある。その皆さんにこういう施設ですと、出向くのもいいかも知れない。それぞれの自治会に回覧版を回してまずは同じ塩冶町内に、こういった施設があると周知し、塩冶町内を周ればもっと違う反応もあるかもしれない。

コミセンに相談して回覧してもらうのも良いが、特定の事業所のみを回覧する事は出来ないの、塩冶町内にはこのような施設があるというのを周知できるような内容のチラシでないといけない。

⇒宣伝方法は、例えばコミセンだときいちご倶楽部だけの問題ではなくなるので、塩冶町内の施設へ

の声掛けや協働でのチラシ作りなどをして行かなければならない。

まずは、それぞれの自治会長さんにお声掛けし、回覧できればと考えている。

地域かかわりシートについては、前回の改善結果欄が空欄であったため、運営推進会議のメンバーの方に全壊の改善結果欄を入れ込んだかかわりシート②を送付させて頂き、改めて回答いただく事とした。